



TOPIC
1

第17回教養講演会(10/22)が開催されました

令和7年10月22日(水)に、教育推進・学生支援機構基盤教育センター第17回教養講演会が開催されました。今回は、神戸大学大学院教授の平芳裕子先生をお招きし、ご著書『東大ファッション論集中講義』を軸に「教養としてのファッション論」と題してご講演いただきました。

講演の中で特に印象的だったのは、「衣服は自分自身と社会をつなぐ接点である」という考え方です。服は自分の内面を表現するだけでなく、組織への帰属を示したり、他者との違いを際立たせたりする「社会的な役割」も担っています。日本人が明治期に、諸外国との折衝のために男性から順に洋服を取り入れたという歴史的背景も、衣服がいかに社会と密接に関わってきたかを物語っていました。

また、現代の切実な課題である環境問題にも焦点が当てられました。リサイクルとして回収された服がアフリカへ輸出されたのち、膨大な量が売れ残ってゴミとして山積みになり、現地の環境を破壊しているという実態があります。この事実を知り、私たちの消費行動が遠い国々の社会問題と直結していることを痛感させられました。

「服をどう着るか」という問いは、私たちが社会や環境とどう向き合っていくかという姿勢そのものです。何気なく選んでいる一着が、実は世界とつながっている。そのことを再認識させてくれる、非常に意義深い講演となりました。

(清島絵利子)

第17回教養講演会	
<h3>教養としてのファッション論</h3>	
私たちは日々服を着ているけれども、その服というのはそもそも西洋からやってきたものである。日本人がスーツを着て仕事をし、流行のファッションを楽しむようになったのはなぜなのか？ファッション文化の歴史を通して現代の社会を考えよう。	
2025年 10月22日 wednesday 13:00~14:30	<p>平芳 裕子 神戸大学大学院 人間発達科学研究科 教授</p> 
<p>プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 13:00 開催挨拶 13:05 講師ご紹介 13:10 平芳先生講演 14:15 質疑応答 14:25 閉会挨拶 	<p>岐阜大学 全学共通教育棟 2階 25番教室 ZOOMで同時開催</p> <p>100名(対面) 100名(オンライン)</p> <p>対象：岐阜大学・名古屋大学の学生 ・東海国立大学機構の教職員 ・一般</p>
<p>■会場にて受講</p> <p>以下の条件をご確認ください。メールにてお申し込みください。 【会場】全学共通教育棟2階25番教室 【対象】10/22 第17回教養講演会 【定員】50名(先着順) ※オンライン受講生との併席は不可 【お問い合わせ】全学共通教育事務局 ☎058-293-3007 yamada.hideki.e4@mail.f.lthrs.ac.jp</p>	<p>■オンライン参加</p> <p>下記URL、QRコードからアクセスしてください。 ※Zoomのインストールが必要です。 ※Zoomのインストールは無料です。 ※Zoomのインストールは無料です。 ※Zoomのインストールは無料です。</p> 
<p>主催：岐阜大学教育推進・学生支援機構 基盤教育センター 共催：東海国立大学機構アカデミック・セントラル</p> 	

第17回教養講演会ポスター



講師の平芳先生



ご講演の様子

TOPIC
2

第18回教養講演会(11/26)が開催されました

令和7年11月26日(水)に、第18回教養講演会が開催されました。今回の教養講演会も、岐阜大学教育推進・学生支援機構(基盤教育センター)が主催となり、アカデミック・セントラルとの共催イベントとして実施することができました。今回の教養講演会は『「いま」は無数に存在する—マルチ時間スケールから迫る時間の正体』と題し、慶應義塾大学文学部教授である平井靖史先生にお越しいただき、お話しいただきました。

平井先生はアンリ・ベルクソンというフランス哲学者の専門家であり、その時間論を応用したマルチ時間スケール(MTS)説を提唱されていることで知られています。そうした平井先生の思索は『世界は時間でできている—ベルクソン時間哲学入門』において展開されています。このマルチ時間スケールは単に哲学だけでなく、生物学や脳科学などの知見も盛り込まれており、理系の学部が多い本学の学生にも興味深いテーマです。今回の講演会もこの著作の内容に基づき、岐阜大学の学生を中心に、わかりやすく氏の理論をご教授いただきました。

私たちは普段、時計によって刻まれるような単一で均質な時間観念の中で生きています。そこでは「私たちの外側を等しく同じ速さで流れる」時間の捉え方が自明のものと考えられていますが、それは時間を把握する際の一つの枠組みに過ぎません。実際、物理学の枠組みにおいても、出来事間の時間の流れ方は観測者に依存して変わりうるという相対的な考え方がすでに標準視されています。

また、私たちが経験する時間についても、意識の緊張や弛緩のリズム、あるいは記憶の介入の仕方などによって、異なった速さで認識されることがわかっています。また、時間を捉える単位という意味では、私たち自身が数秒から数ヶ月、あるいは数年といった異なる時間スケールの出来事を同時並行的に進めつつ、その中で適切に対処できるような形で記憶を展開しています。

平井先生が提唱されているマルチ時間スケールはこうした物理学的な時間と心理学的な時間を包摂する時間論であり、複数の時間尺度が同時に作用するものとして世界を捉え直す新たな枠組みです。このような新しい時間論に触れることは、本学の学生や名古屋大学の学生にとっても大きな刺激になったであろうと思われます。

(長谷川暁人)



講師の平井先生



ご講演の様子

第18回教養講演会

「いま」は無数に存在する

—マルチ時間スケールから迫る時間の正体—

「時間とは何か」という問いは古くから存在する哲学的な問いだが、近年では物理学や心理学などさまざまなアプローチがなされており、時間の正体は益々神秘的な存在となっており、我々を驚かす存在となつていく。今回は、物理学の時間論をベースに、心理学的な時間と心理学的な時間を含む新たな時間論の探求。マルチ時間スケール(MTS)の考え方を基盤として、長谷川暁人教授の講演をお楽しみください。現代の科学的な考え方も取り入れた、新たな時間論の探求方についてお話しします。

2025年 **11/26** (Wed)
14:00~15:30

講師 **平井靖史** (やすし) 先生
名古屋大学文学部 教授

会場 **岐阜大学 全学共通教育棟 2階 25教室**
ZOOMで同時開催

定員 **対面: 100名**
オンライン: 100名

対象 **岐阜大学・名古屋大学の学生**
東海国立大学機構の教職員
一般

申し込み方法

申し込み先 **全学共通教育課**
TEL: 056-249-3007
E: info@ccs.gifu-u.ac.jp
URL: www.ccs.gifu-u.ac.jp

第18回教養講演会ポスター

TOPIC
3

令和7年度第1回FD(11/5)が開催されました

11月5日(水)に、令和7年度第1回FD「学生ステータスシステム crescendo の効果的な活用事例について」が行われました。

まず、教育推進・学生支援機構の長谷川准教授から、crescendoのシステムの概要や活用方法が紹介されました。次いで、実際にcrescendoを活用している2名の方から活用事例について報告がありました。出村教授(社会システム経営学環)からは、学生の面談に活用している事例が、教育学部の学生からは、自身の学びや活動を記録し、ポートフォリオとして活用していることが、それぞれ報告されました。また、福岡教学DXセンター長(教育学部)からは、今後のcrescendoを活用する展望として、学びの可視化についての紹介がありました。

今回のFDを通じて、実施したいこと(目的)が先にあり、そのツールとしてcrescendoを活用することが有効であると感じました。また、crescendoを活用してできる重要なことのひとつが「学びの可視化」であると思いました。「可視化」とは、学生自らが学びを振り返るとともに、社会に向けて大学がどのような教育を実践しているのかが明確になるといえるものと思います。さらに、「学びの可視化」の裏付けとして、適正なシラバスが必須となることも今回のFDを通じて感じました。

(椎名貴彦)

令和7年度 第1回FD

学生ステータスシステム **crescendo** の効果的な活用事例について

令和7年 **11月5日(水) 13:00~14:30**

岐阜大学において令和4年度から進められているプロジェクトである学生ステータスシステム **crescendo** について、これまでに取り組みをすすめて、教員・学生に向けた、効果的な使い方を提供する。

Time Table

13:00~	開会挨拶	会場 岐阜大学 全学共通教育棟 3階 34 階教室 対面 ZOOMで同時開催 定員 対面: 100名 オンライン: 100名 対象 岐阜大学・名古屋大学の学生 東海国立大学機構の教職員 一般
13:05~	学生ステータスシステムについての概要説明 長谷川准 准教授 (教育学部) 報告	
13:30~	岐阜大学学生ステータスシステム crescendo の活用事例 出村直史 准教授 (社会システム経営学環) 報告	
13:40~	学生からの利用事例報告 第1名 学生 (教育学部) 報告 第2名 学生 (教育学部) 報告	
13:55~	今後の学生ステータスシステム crescendo の展開について 長谷川准 准教授 (教育学部) 報告	
14:10~	質疑応答	
14:25~	閉会挨拶	

申し込み方法

会場にて直接
 申し込み先 **全学共通教育課**
 TEL: 056-249-3007
 E: info@ccs.gifu-u.ac.jp
 URL: www.ccs.gifu-u.ac.jp

オンライン参加
 申し込み先 **全学共通教育課**
 TEL: 056-249-3007
 E: info@ccs.gifu-u.ac.jp
 URL: www.ccs.gifu-u.ac.jp

令和7年度第1回FDポスター



教学DX推進センター長の福岡先生



社会システム経営学環の出村先生



教育学部の繁さん

TOPIC
4

令和7年度第2回FD(12/19)が開催されました

令和7年12月19日（水）に、教育推進・学生支援機構基盤教育センターの令和7年度第2回FDが開催されました。まず初めに、オーガナイザーの長谷川先生から、生成AI時代における「言語と文化」をテーマとしたFD開催の概要説明がありました。この中で、近年急速に高機能化が進む生成AIによる翻訳技術について、ご自身の研究分野で用いられているフランス語を例に、学会発表での活用例などをご紹介いただきました。

その後、言語と文化部会部会長の洞澤先生より、本学で開講されている第二外国語の履修形態について説明がありました。学生には、単に他言語を習得するだけでなく、その背景にある異文化や歴史を学び、それを通して自らが暮らす日本にも改めて目を向けてほしいという思いが語られました。また、学生からの第二外国語授業に対する評価が高いことも紹介されました。

フォン・フラクシュタイン先生（ドイツ語）からは、ご自身が実感されているドイツ人と日本人の違いを、授業を通して学生に感じ取ってほしいという思いが述べられました。さらに、ゲラン・ジル先生（フランス語）からは、フランス語特有の概念を通して、フランスの文化や政治などにも思いをはせてほしいとのお話があり、言語を通じた異文化理解の重要性が紹介されました。大宮先生（アイスランド語）からは、本授業が連携開設科目となっていることが紹介され、他言語を通して日本を含むさまざまな文化を知り、海外で挑戦する意欲を持ってもらいたいという思いが語られました。橋本先生（中国語）からは、部会で作成した中国語の教科書の紹介がなされ、学生が授業を通して中国の文化や社会的背景について考えるようになってほしいとのお話がありました。

近年、異なる文化に対する寛容性が低下しているように感じられる事例も少なくない中で、先生方のお話を伺い、改めて若い学生が異文化への理解を深めていくことの意義を強く実感しました。
(高橋周平)

令和7年度 岐阜大学 教育推進・学生支援機構 第2回 FD

12/19 Friday

13:00 開催挨拶

13:05 生成AI時代の第二外国語について

13:25 第二外国語としての「言語と文化」科目のねらい

13:35 「言語と文化」における独自の試みについて

14:25 閉会挨拶

会場にて聴講

オンライン参加

対面：100名
オンライン：100名

対象
■ 東海国立大学機構の教職員
■ 岐阜大学・名古屋大学の学生
■ 一般の方々

令和7年度第2回FDポスター



洞澤先生（言語と文化部会部会長）



橋本先生（中国語）



大宮先生（アイスランド語）



ゲラン先生（フランス語）



フラクシュタイン先生（ドイツ語）

TOPIC
5

日本語表現 I（初級）における書評スライドの展示

みなさんは、普段どのくらい図書館に足を運んでいますか。本学では毎年、図書館との共同企画として、4月から6月、10月から12月の年2回、授業で作成された書評スライドの優秀作品と関連図書の展示を行っています。過去の優秀作品もファイルにまとめて公開しており、誰でも閲覧することができます。この取り組みは、1年生に限らず多くの学生に、本学の学生が作成した優れたスライドに触れてもらい、今後の課題作成の参考にしてほしいという思いから始めました。

今年度も10月から1月中旬までの3ヶ月半にわたり、前学期の受講生1,061名の書評スライドのなかから、評価の高かった上位100名の作品と関連図書を展示しました。多くの学生がブースの前に立ち止まって、スライドや図書を見たり、過去のファイルに目を通したりする様子が見られました。展示図書は、社会学や心理学分野が多いようです。なお、後学期の優秀作品は新年度4月に展示予定です。ぜひ、図書館に足を運び、多くの図書と学生の表現に触れてみてください。

（清島絵利子）



図書館の書評レポート展示の様子

基盤教育センター（令和8年2月現在）

センター長	益子 典文	専門分野：教育学
副センター長	椎名 貴彦	専門分野：基礎獣医学
副センター長	清島 絵利子	専門分野：日本語学
副センター長	長谷川 暁人	専門分野：フランス哲学

岐阜大学 教育推進・学生支援機構 基盤教育センター

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1
TEL 058-293-3007

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~orphess/>
益子 典文 長谷川 暁人 責任編集